

審議テーマの背景（国の動向、本市を取り巻く環境）

（１）国の動向

■ 第４期教育振興基本計画（令和５年６月１６日閣議決定）

「2040 年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」、「日本社会に根差したウェルビーイング」を総括的な基本方針とし、将来の予測困難な時代における教育の方向性を示す総合計画

5つの基本的な方針（抜粋）

1 グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成 （マルチステージの人生を生涯にわたって学び続ける学習者の育成）

- 学校教育と社会教育が連携することも重要であり、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進により、学校と地域住民が連携・協働することで、子供たちの学びの場を学校から地域社会に広げ、次世代の社会の担い手としての成長を支えていくことが求められる。
- 地域における社会教育を通じて、地域のつながりの中で体験的に学び、地域における様々な活動に積極的・主体的に関わる意識を高め、それを生涯にわたって実践していくことが望ましい。

3 地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進 （社会教育を通じた持続的な地域コミュニティの基盤形成）

- 社会教育は、地域住民が共に学ぶものであり、地域コミュニティ形成の営みという性格を強く有している。近年、防災、福祉、産業振興、文化交流などの多様な行政分野において、その地域課題の解決に向けて、関係省庁が地域コミュニティに関する政策を提示している。これらの政策は地域コミュニティが維持されていてこそ機能するものであり、社会教育の役割が重要となる。
- 地域において人々の関係を共感的・協調的なものとするためには、社会教育による「学び」を通じて人々の「つながり」や「かかわり」を作り出し、協力し合える関係としての土壌を耕しておくことが求められる。こうして形成された地域の人々の関係は持続的な地域コミュニティの基盤となり、ひいては社会全体の基盤となる。「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環が生み出されることにより、地域コミュニティにおける個人と地域全体のウェルビーイングの向上がもたらされる。

※ウェルビーイングとは

身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものである。また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念である。

(2) 本市を取り巻く環境

■第9次豊田市総合計画

とよたローカルゴール

…変化の激しい予測困難な社会において、まちの持続可能性に加え、市民一人ひとりの心身の豊かさも一層大切にしたいという思いから、本市独自の横断的な目標として設定

L1 こどもたちが夢と希望を持ち、自らのミライを切り拓く力を育む



持続可能なまちづくりのためには、次世代を担うこどもの育成が必要不可欠です。こどもたちがミライに向かって夢と希望を持ち、心豊かに暮らせるよう、「こども起点」、「こども視点」で施策の在り方を考え、まちづくりを推進します。

【5年間で特に注力する視点】

▶視点1 「こども起点」でまちづくりを考える

- 変化の激しい予測困難な社会の中で、こどもたちには、自らのミライを自ら考え判断するための力を育むことが求められています。学力だけでなく、自己肯定感や、人・社会と関わる力を高めることが必要であるため、多様な場におけるこども同士や多世代とのつながりの中で、多様な経験をしていくことが必要です。

■第5次豊田市教育行政計画

学びの大綱

【基本理念】

つながりの中で、誰もが学び合いながら、自分らしく豊かな人生を切り拓く

【めざす学びの姿】

▶豊田市の多様な魅力を分かち合い、つながりの中で学び、地域とともに育つ

- 多様なつながりの中で学び合い、地域を愛し、地域資源を活用する人が育っていく好循環を生み出すために、都市と山村、産業と自然、多文化共生等、本市の豊かな魅力を生かして学習・活動する機会を充実させるとともに、家庭・学校・地域が一体となって取り組む、地域ぐるみの学びを共働により推進します。

＜参考＞ 中学校部活動の地域展開(令和 8 年 9 月)

地域学校共働本部を軸に「とよた地域クラブ活動」を運営。地域コーディネーターとは別に、とよた地域クラブ活動（とよクラ）の事務や総合的な調整を担うクラブコーディネーターを配置。

